

団体名	国立大学法人 宮城教育大学教員キャリア研究機構 国際教育研究領域						
事業名	留学生の国のことばや文化を知ろうプロジェクト						
実施期間	2018年5月1日～2019年1月31日						
場 所	宮城県内の小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	161		1,599		90		1850名

<実施内容>

宮城教育大学は、教員養成分野における広域拠点型の大学として指定を受け、優れた資質・能力をもった教員養成に責任を負う大学として活動しています。2019年4月には外国人技能実習生50万人の受け入れが始まるなど、グローバル化の波は地方にも押し寄せており、学校現場もその例外ではありません。

本学では、長年にわたり、外国人留学生が学校を訪問し、子どもたちとの交流活動を積極的に行ってきました。ところが、2020年度より、小学校では「英語」が教科化されることになっており、子どもたちの意識は「外国語＝英語」に固定化しつつあります。しかし、グローバルな社会で生きていくことになる子どもたちにとっては、言語や文化、民族など、世界の多様性に目を向けることがグローバルな視点を持つことにとって不可欠です。

そこで、本事業では、日本人の子どもたちが留学生と交流し、留学生の様々な国の文化や言語に興味関心を持ち、言語や遊びなどを体験的に学ぶ場を提供しました。また、子どもたちが挨拶をはじめとする言語にも興味や関心が広げられるように、留学生の協力を得て、教材の作成を行いました。

<記録写真>



◆小学校で国際交流活動の様子



◆留学生が中国語を紹介する様子



◆作成した教材

<参加者からのコメント>

肖音さん(中国)/XIAO YIN

子どもたちとの交流は二回目です。はじめての時はとても緊張した。でも、今回はあまり緊張しませんでした。小学生のみんなはとても根気が強く、私がわからないことを何回も説明してくれました。動作もつけて説明してくれたのは、すごくいいと思いました。

マグヌスさん(スウェーデン)/LAM MAGNUS

小学生たちがとても面白かったです。そして、私の国の紹介をととてもよく聞いてくれたので、うれしかったです。尺のゲームは子どもたちにとっても人気がありました。子どもたちが教えてくれたとき、最初は簡単なゲームだと思っていましたが、ルールがたくさんあって複雑なゲームでした。とても楽しかったです。